



故きを温ねて、新しきを知る ～葵学園のあしあと②⑥～

改革を今一度振り返ると：その2

学校法人帯広葵学園
理事長 上野敏郎

帯広葵学園の歴史（ある資料からの転載）

5. 昭和45年4月
葵幼稚園（園児数186人）でパン給食を始める。昭和44年4月に開園した葵南幼稚園は、厳しい園児募集状況にあった。2月の段階で80人の募集に対し、33人の応募に留まっていたとの新聞記事がある。なお、この年の2月には、芽室幼稚園が開園している。
8. 昭和45年2月27日
帯広市内の私立幼稚園「どうやら定員確保」の記事が掲載された。記事によると、私立幼稚園は園児募集が厳しく、定員確保が困難な状況にあった。また、記事には「市内の幼稚園は、定員確保が困難な状況にある」とある。この状況は、昭和45年2月27日の「十勝日報」に掲載された記事「私立幼稚園 どうやら定員確保」に詳しく記されている。
6. 昭和46年10月
帯広市幼童教育振興会（12園で構成）は、翌年度の新聞児募集にあたって保育料を500円値上げすることを決めている。全園の募集人数は1700人うち、葵幼稚園は135人、葵南幼稚園は80人であった。
7. 昭和48年11月
帯広源照学園（現帯広葵学園）は、昭和48年11月10日開催理事会で大高源照理事長の辞任願いを受け、第2代理事長に阿部勝治氏を選任。また、この理事会には4名の理事と2名の監事の辞任届も提出された。大きく見て、葵学園の歴史を振り返るとき第二期の段階へ歩き始めたときとみるべきである。
8. 昭和49年4月
それまで、法人の資産ではなかった葵幼稚園の土地、建物、遊具を所有者から買い、その後園舎の改築工事に着手。
9. 昭和49年10月
これまで、学校法人帯広源照学園の経営下にある園は葵南幼稚園1園であったが、認可が下り葵幼稚園の経営下に置くことになる。更に葵幼稚園は、市内にある他の幼稚園に先駆けて「障害児と健常児の総合保育」事業をこの年から開始する。

